

令和4年度6月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和4年6月3日（金）午前11時00分～11時50分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ8社 13名

会見内容

1. 話題提供（2項目）

1. 令和4年度市政懇談会の開催について

- まず、令和4年度市政懇談会の実施についてです。
- 今年度の市政懇談会は6月28日火曜日の「まなぼっと幣舞」を皮切りに7月15日の音別町コミュニティセンターまで7会場、釧路地区4会場、阿寒地区2会場、音別地区1会場で実施いたします。
- 今年度の市政懇談会は、釧路地区の開催場所が西部、中部、東部と広範囲でエリア分けをし、コア3館（鳥取、かがやき、大空）で開催していましたが、なかなか会場まで来ることが大変でありますので、単年度方式からの見直しを行い、地区連合町内会（地区連）の最寄りの地区会館などを複数年でまわる形で進めていこうと考えています。
- 市政懇談会では、全体を対象とするのではなく、地域の中でいろいろな話をしていく形で進めていこうと考えており、40ある地区連を複数年かけてまわっていこうというイメージで考えていただければと思います。
- 全市的な会場としましては、6月28日の「まなぼっと」となりますので、お時間ある方はぜひ参加いただきたいと思います。
- 合わせまして、市政懇談会の事前の調査として各町内会や地区連経由で要望をいただき、市政懇談会で回答しておりましたが、手法を変更し、定例的に年2回要望をいただき、文書でご回答する仕組みといたします。市政懇談会の中でも、様々なご意見をいただければと思います。
- 私がお話しする内容も、例えば、まちづくりに向けた駅周辺の問題など、いろいろと議論を進めていかなければならないテーマとし、市民の方々と共通認識に立てるような市政懇談会にしていきたいと考えております。

2. くしろ100年事業「阿寒湖周辺スタディートリップ」の参加者募集について

- もう1点は、「阿寒湖周辺スタディートリップ」についてです。
- これは、くしろ100年事業ということになります。市制施行からちょうど100年でありますので、この冠を付けた中で、7月30日土曜日に実施いたします。
- この事業の思いといたしましては、釧路市の将来を担う市内の大学生をはじめとする市民の皆さまに参加いただきたいと思います。

- ガイドは、釧路国際ウェットランドセンター阿寒湖沼群・まりも研究室の若菜勇室長とし、阿寒湖周辺の自然環境を散策いたします。これはなかなか無い貴重な機会です。
- 現時点の行程ですが、双湖台やチュウレイ島を巡りながら、いろいろガイドをいただくという内容となっております。
- 募集はすでに始まっており、6月1日から今月末の6月30日までとなっております。
- 対象は18歳以上の市民の方で、応募多数の場合は抽選となります。応募方法はインターネットの応募フォームまたはメールとなります。
- 「スタディートリップ」の開催地であります阿寒湖は、阿寒摩周国立公園として「ゼロカーボンパーク」に道内で最初に指定されております。ですから、皆さんにもマイボトルを持参していただき、脱炭素・脱プラスチックに向けた取り組みも皆様と一緒に取り組んでいきたいと考えております。
皆さんには、応募いただきたいと思っております。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 市政懇談会について、市長からこういうテーマについてお話ししたいと考えているところはありますか。

(市長)

- ・ 先ほど申しました釧路駅周辺の計画について、個別の計画については議会にもお示ししておりますが、その前段の考え方については、共有できていないことが多々ございます。私はずっと、「これまで30年弱も中心市街地の活性化に一生懸命取り組んできましたけれども、誰もが活性化について実感していないのはどうしてなのか、ということからもう一度考えていきませんか」というお話をさせていただいております。つまり、効果がないことをあと何年続けたらどうなるのか。今まで行ってきたことをしっかり考えた中で、中心地を走る道路をどうするという個別の議論ではなく、中心地の活性化を生み出すために、今まで行ってきたことと、これからどういうことを進めていくのかという考え方を示していかなければ、話がかみ合わないことが多々あると感じておりました。そういった議論を共通の形として構築するためにも、こちらの考えていることを明確にお示していくことが必要だと考えております。

合わせまして、まちづくり基本構想の中でも雇用を中心にしていける形もございまして、そのために我々がいろいろなところにお声がけをしているところですが、どちらかという物事が決まってから報告するということが世の常ですが、今取り組んでいることをお話ししながら進めていくことが重要と思っており、決まったことを発表するのではない形で、この市政懇談会を進めていければと考えているところでございます。

(質問)

- ・ 市長からの一方的な説明ではなく、住民からの質問を受けて質疑応答の形で行うことも考えていますか。

(市長)

- ・できるだけそういう形でやっていきたいと考えています。そうするためにも、市の考え方を言わないといけないと考えております。「ここの道路がどうなるのか」ではなかなか議論が深まらない。どういう考え方の中で進めていくのかを示し、それについてどう思いますかという問いかけを行っていきながら、市民の皆様に関心を持ってもらえるように議論を深めながら進めていこうと考えています。

(質問)

- ・複数年度の中で進めていくと説明がありましたが、今回開催するところが必ずしも来年開催されるということではなく、数年かけて地区をまわっていくということですか。

(市長)

- ・その通りです。決め方としては、先ほど説明した通り今までは3ブロックで分けていましたが、エリアが広がってしまいます。そこで一つの目安として市内に40ある地区連としております。本当は40全てで開催できればいいのですが、スケジュールの都合もございますので、今回は3か所で開催します。このやり方ですと10年かかりますが、地区連も大小ありますので、方法については検討してまいります。地区連単位で声掛けを行い、何人集まったかという実績ではなく、その地域で市としてどのような話をしていくのかを優先して進めていこうという考えです。

(質問)

- ・市政懇談会の年間の開催回数は変わらないということですか。

(市長)

- ・今のところは変わっていません。
例年は新年度予算の事業説明がベースで、町内会からの事前に受け付けた要望にお応えする形でありましたが、今回やり方を変えて、市の考え方を示していく形をとりたいと思っています。今回はこの形でスタートしますが、今後の展開につきましては、いろいろなご意見をいただきながら検討していきたいと思っております。今はまだ年間の開催する回数は決まっております。

(質問)

- ・今回は地区会館という小さいところで行うということですが、入場できない人も出るのではないですか。

(市長)

- ・コア3館で実施していた時は、ありがたいことに町内会の役員の方が来てくれました。市政懇談会の目的は、市の取り組みを示していくというのがありますが、できるだけ地域の中で一緒に考え方を共有したり、まちづくりを進めていくことが望ましいと考えています。そこで可能な限り皆さんが参加できる場所で行いたいと思っております。「コアは遠いけど地区会館なら行ってみよう」ということもあるかもしれません。考え方はそういうことです。

(質問)

- ・今回開催していない地域は、来年や再来年以降に開催するということですね。

(市長)

- ・そのように考えております。また、市全体としてはまなぼつとを用意していま

すのでどの地域の方でも参加いただければと思います。

(質問)

- ・ 新型コロナウイルスのワクチンの件ですが、5月は感染者数も多かった中で、3回目接種が1、2回目より進んでおらず、4回目も始まるということで、現在の新型コロナウイルスの見方をお答えください。

(市長)

- ・ 4回目の接種は60歳以上と18歳以上60歳未満の基礎疾患を有する方ということで、これまでとは変わってくると思っています。案内についてはスムーズにいくように進めてまいりたいと考えております。そして、今の3回目ですが65.5%の接種率となっておりますが、確かに1、2回目よりは下がっておりますが、全国的に同様の流れであります。

我々は、正しく恐れるための情報を提供すると同時に、医療体制を堅持することは義務と位置付けている中で、医師会等と連携を取りながら進めてきたところであり、この2年半はしっかりと確保できておりますので、多くの医療関係者にはあらためて感謝するとともに責任をしっかりと果たしていると考えております。

あとは、感染防止対策の必要性や重症化の情報を伝えつつも、これだけ長い期間となっておりますので、このような接種率となっていることは当然のことと考えております。

(質問)

- ・ 3回目までは順調に来ていると考えていますか。

(市長)

- ・ そう感じております。

(質問)

- ・ 4回目も対象者には接種していただきたいと考えていますか。

(市長)

- ・ それは対象者それぞれの考えがございますが、やはり医療現場や高齢者施設は感染のリスクが高くなっておりますので、全国的に取り組んでいくとともに、60歳以上の希望される方が接種できる体制をつくる準備を進めております。

(質問)

- ・ ワクチンの接種会場について、特設会場を設けるとのことですが、プリンスホテルにて再開するということですか。

(市長)

- ・ 7月の下旬に、4回目接種会場として、プリンスホテルで1日600人体制を設けます。

(質問)

- ・ プリンスホテルで接種できるワクチンはモデルナだけですか。

(健康推進課課長補佐)

- ・ モデルナだけで考えております。

(質問)

- ・ 3回目と同等規模の体制とありますが、4回目は3回目と比べると対象者が少

なくなると思いますが。

(市長)

- ・ 対象は60歳以上になりますので、人数は変わりません。その後の期間の問題となります。その体制をしっかりとるには接種会場が必要になります。対象者は5万8千人となります。

(質問)

- ・ 同等の規模とは1週間当たりの接種回数などということですか。

(健康推進課課長補佐)

- ・ その通りです。医療機関の数も50～60と前回同様の体制で行っていきたいと考えています。

(質問)

- ・ 他の都市では、モデルナ製のワクチンを廃棄しているとの話を聞きますが、釧路市は現状どのようになっていますか。

(健康推進課課長補佐)

- ・ 現在はモデルナも一部では接種していますが、ファイザーを多めに接種しています。4回目も各医療機関では基本的にファイザーで接種していきます。

(市長)

- ・ ワクチンの供給に合わせて行っております。

(健康推進課課長補佐)

- ・ 4回目も1対4の割合でモデルナの方が多く供給されますが、これまでの供給分と合わせて医療機関ではファイザーで行います。

(市長)

- ・ 以前も説明しましたが、ファイザーがいいなど接種者のご意見もありますが、医療機関の扱いやすさという点で、1バイアルから接種できる回数でいきますと、モデルナが15から18回分、ファイザーが6回分となります。ですから大規模接種会場では多くの方が来られることからモデルナとなっております。

(質問)

- ・ 釧路市では廃棄はせずに使い切っているということですか。

(健康推進課課長補佐)

- ・ 3回目の供給分も4回目に転用しますので、今のところは、廃棄はしておりません。

(質問)

- ・ 市政懇談会の説明の中で、駅前の開発について議論しなければならないとありましたが、北大通を4車線から2車線にすることで防災の点からもどうなのかという意見もあると思いますが、今市長の中で駅前の開発について市民に説明ができていないと思う点はどこですか。

(市長)

- ・ 今までの地方都市はどういう形でまちづくりを行ってきたかということです。これまでは人ではなく車を中心に進められてきました。車は必要不可欠なものです。それでは街の賑わいを取り戻せません。過去のまちづくりを振り返った時に、昔は職・住が近接しておりましたが、住環境をよくするために都市を郊外に拡大してきました。それにより中心市街地に居住者がいなくなり、人が住むため

に必要な機能もなくなりました。そこで中心市街地は車が通行しやすく、大量の車が来るため、駐車場が必要になる。このような形で本当に賑わいができるのであろうかということです。平成10年に中心市街地活性化がスタートしましたが、全国の商店街を見るとなかなか成果が上がっていない。その時にモデル地区となったところの現状や我々の行ってきた取り組みも同じです。中心市街地の活性化の手法について、もう1回見直してみませんかというお話を進めていきたいと思っています。

(質問)

- ・ 2月の議会で老朽化している公共施設を駅前に移すということを検討していると発言がありましたが、具体的にどの施設がというものはありますか。

(市長)

- ・ 本会議では様々な機能を中心市街地に持ってくるべきという話をしました。議論の展開としましても、核となる施設があれば人が集まるということと、逆に人が集まることで企業や店舗等が出店するということがあります。誘致を行った際に、釧路には来たが中心市街地には来なかった時、相手方の誘致を受けるための基準や考え方もありますが、人が集まる環境を作った時に多くの人や企業が集積することになります。

まずは図書館が中心市街地に来ました。今まで分散して作っていた機能、例えば決まってはいませんが、市民文化会館のような施設や子育て環境を集めていきながら、人が集う環境を作った時に、そこに充実される土台が出来上がってくるのではないかと考えています。街に何もなければ行かないということもありますが、中心市街地にいる人がそういう環境を作れば充実するというものですから、まず第一歩として駅周辺を含めた大きなまちづくりの考え方について、考え方を話そうと思っております。

(質問)

- ・ 5月中旬まで支所廃止の説明会を行いました。反対の意見が多かったと思います。市政懇談会の場でもそういった質問が出てくるのかと思いますが、反対の意見が多かったということに対して市長の受け止めをお聞かせください。

(市長)

- ・ 説明会の後半の意見まではまだ確認しきれませんが、報告を受けた中では、職権及び委任状を用いての利用における対応を踏まえていなかったことが課題と認識しております。今それについては、どのように対応していくのか国に問い合わせをしておりますが、まだ返事が来ておりません。そういった中で、対応できることとできないことが重要になってくると考えております。皆様がどういった受け止め方をするのか、その中身が重要と思っておりますので、全体を見ていながら、できないことがあることが問題ですので、相談していきたいと考えております。

(質問)

- ・ 来年2月に廃止するという方針に変わりはありませんか。

(市長)

- ・ 職権や委任状を用いた利用の対応がどうなるのか、その対応を考えなくてはならないと思っております。方針を決める前にしっかりと対応を考えなくてはならないと思っております。

(質問)

- ・ 期限もあると思いますが、9月議会や12月議会までに方針を決めますか。

(市長)

- ・ 我々は業務の一環として考えておりますことから、先ほどの対応ができないものでしたら廃止もできないものですし、対応としてできるものであればしっかりと進めます。

(質問)

- ・ コロナが落ち着かない状況ですが、大きなイベントが徐々に復活していると思います。港まつりが会場を変えて開催しますし、チューリップ&花フェアも開催されました。感染者が全く出ていないという状況ではない中で、イベントを再開させるという流れを市長はどのように受け止めていますか。

(市長)

- ・ 私は実行していくことは必要だと思っています。人間とウイルスの歴史は長いものですから、ゼロコロナはあり得ないという話をさせていただいています。しっかりそのことを踏まえ、正しい情報を出していきながら、正しく恐れていろいろなことを行っていくことが重要であります。ですから、イベントが再開できることは良いことと思っております。また、国で2類から5類への見直しを検討する動きもありますので、様々な行動の制限が解消されると思っております。

今後もしっかり感染防止を行っていきながらいろいろなことを戻すということが重要だと思っております。昨年11月の市長会でも「コロナ健康被害」が議題になりました。コロナにより「動かない」「活動しない」「籠る」ことによる健康被害が顕著になっています。

(質問)

- ・ 日本製紙の工場跡地の最近のやり取りを教えてください。

(市長)

- ・ 日本製紙とは、やり取りを続けているところであり、また、いろいろなところと話をしながら進めておりますが、まだ具体にお話しできる状況となっております。何とか動かしたいという思いで相談やお話をさせていただいているところです。

(質問)

- ・ 市長の受け止めとしては、焦りなのか楽観的なのか現状はどうですか。

(市長)

- ・ 私は5年間の時間軸の中で物事を考えるべきだと思っております。5年で何かを実施しようと思うと3年間で模索するというイメージであります。そういった中で提案したり、相談を行っているところです。焦りがないのかと言われるといち早く動かしたいという思いですけれども、時間軸的にはそのように考えているところです。

(質問)

- ・ 観光客について、観光バスやツアーのバッジをつけた旅行者をよく見るようになりましたが増えているという情報を聞いていますか。また、インバウンドも解禁になり釧路に来るような情報があれば教えてください。

(市長)

- ・ 「まん延防止等重点措置期間」が明けて予約の状況は好調と聞いておりましたが、知床沖の観光船の事故で、船には乗らないが、旅行先として遠慮するという動きが出てきたという現実があります。そのような中で、観光客には来ていただいています。まだまだコロナ前には戻っていない状況です。事故の原因や対策をしっかりと行っていただく中で、コロナ前に戻ることを期待しています。

インバウンドにつきましても、6月1日から入国者の上限が2万人になり、外国人観光客の訪問も復活してくるものと考えておりました。台湾など釧路のファンの方もいらっしゃいますので、一步一步ではあります。回復してくるものと考えております。

(質問)

- ・ アイスホッケーのクレインズの件ですが、財政的に厳しいという話を聞いております。市としてサポートとかのお考えはありますか。

(市長)

- ・ クレインズには存続していただきたいと思っております。今までも様々な施策を行ってきたところであり、しっかりと継続していきたくと思っております。そのような中でチームも市民も支えあう機運が大事なことと思っております。チームともお話をしていきたいと思っております。勝っていくことも大事ですが、環境づくりを進めていただきたいと思っております。氷都釧路として支援を続けてきたところでもありますので、しっかりとバックアップをしていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 支援について新たな取り組みはありますか。

(市長)

- ・ 今までも頑張って支援を行ってきたと思っております。市役所の中に後援会も作り、様々な分野に声掛けもしております。みんなで支える機運をチームの方も作って進めていただきたいという思いでおります。